

「知」の集積と活用の中 産学官連携協議会 ポスターセッション出展予定一覧 (平成28年5月16日現在)

1. ポスター発表

分野	出展名	法人名又は所属	展示概要
1 日本食・食産業のグローバル展開	食産業のグローバル化	TNO オランダ応用科学研究機構	食と健康に関する大規模コンソーシアムの事例(日本から参加可能) -ライフスタイルや遺伝的な要因に基づく体内&精神的ストレスへの適応性の定量化と、食による改善 -食物アレルギーによる消費者被害を2030年までに撲滅する取り組み -世界的食糧需要の増加(2050年を視野に)に供給を追いつかせるための素材開発のイノベーション
2 日本食・食産業のグローバル展開	アミノ酸シグナルを利用した臓器特異的な脂肪蓄積技術の確立とその利用	東京大学大学院農学生命科学研究科	全アミノ酸あるいは特定のアミノ酸を欠乏させた食餌を脊椎動物に給餌すると、肝臓、筋肉、脂肪組織に、異なる様式で脂肪が蓄積する。この現象を利用した高品質食材の製造原理をパネルや配布資料で説明する。
3 日本食・食産業のグローバル展開	過冷却促進物質による生鮮食材の未凍結保存技術への応用	関西大学化学生命工学部	本物質を用いると生鮮食材の一部は0℃以下でも未凍結で保存できる可能性がある。これまでにない農業資材としての展開およびコールドチェーンの新技術を提供できる。
4 日本食・食産業のグローバル展開	農研機構・中央農研が育成した大麦・水稻品種(その特性概要と可能性)	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター企画部 産学連携室	農研機構・中央農研(作物開発研究領域)が育成した大麦・水稻の中から、機能性や加工・調理特性、栽培特性等に優れた品種を選び、ポスターやリーフレット等にて紹介します。これら品種は育てやすく安定生産が可能で、農業者と実需者の双方にメリットがあります。
5 日本食・食産業のグローバル展開	伝統的日本人食を基盤とした健康食「日本食」の確立に関する研究	東北大学大学院農学研究科	日本人の食事は、伝統素材を中心に様々な食材を用いて多様性に溢れた調理を行う特色を持ち、健康長寿に有益であると考えられている。我々は、1970-80年頃の伝統的日本人食が最も健康有益性の高いことを明らかとし、この食事の特徴を解析し、「健康的日本人食」の科学的エビデンスを蓄積してきた。本展示では、健康食「日本食」の特徴についての概要などを説明したい。

6	日本食・食産業のグローバル展開	日本発革新的農業生産技術; プラズマアグリ®システムの現状と今後の展開	東北大学事業イノベーション本部	輸出産業として期待される、高付加価値イチゴの栽培・鮮度維持にスポットを当て、革新的プラズマアグリ®技術のこれまでの成果と今後の展開について、技術紹介の展示を行う。
7	日本食・食産業のグローバル展開	農産物、加工食品の抗うつ機能性探索システム	茨城大学農医連携プロジェクト	茨城大学農医連携プロジェクトにおいて、うつ病マウスが安定的に供給できるメドが立ち、3次元カメラ等を用いた行動評価系も確立しつつある。茨城県産農産物を用いて試行している抗うつ機能性探索システムを紹介する。
8	日本食・食産業のグローバル展開	「東北ブランドのブドウ・ワインの高付加価値化を図り、日本食・食産業のグローバル展開」研究開発プラットフォーム	「高島ブランドのワインを核に、山形県置賜地域の創成～ワイン地域技術連携、TPP加盟国への輸出拡大」研究開発プラットフォーム(仮称)	1. 山形県高島地域におけるブドウの高付加価値化とワイン醸造～世界展開の全体構想 2. 高付加価値「ブドウ・ワイン」造りのため、開発技術の概要、「栽培条件(根・土・果実。周辺栽培環境等)、栽培方法・環境整備(ICT技術活用)」、「生育アルゴリズム」(多彩な各種センサーにより、生体信号等の受信)等、開発する技術の概要 3. コンソーシアム体制(開発～市場化の体制)
9	日本食・食産業のグローバル展開	水産物に適したトレーサビリティ/新品質評価による品質の見える化システム構築	水産物トレーサビリティ研究開発プラットフォーム	漁獲から流通/加工を経て食卓に届くまでの水産物のトレーサビリティと品質評価技術の確立及び判り易い品質の見える化システム/家電連携によるレコメンドサービス
10	日本食・食産業のグローバル展開	青果物の鮮度保持輸送技術の構築(仮称)	青果物の鮮度保持輸送技術の構築研究開発プラットフォーム(仮称)	青果物のグローバルな鮮度保持輸送技術を構築するための研究プラットフォームの概念と、具体的な取り組みについて紹介する。
11	日本食・食産業のグローバル展開	食品の革新的保存・輸送技術プラットフォーム	食品の革新的保存・輸送技術研究開発プラットフォーム(仮称)	本プラットフォームの設置目的である「低温・未凍結状態で食品の鮮度を長期間保持するために必要な保存・殺菌などの技術、および、鮮度を保持した状態で国内外に輸送する流通技術の研究開発を通じて、革新的なコールドチェーンの構築を目指す」や、整備の現状を紹介する。
12	日本食・食産業のグローバル展開	新たな生物系素材と食品メタボローム解析技術等活用による日本食・食産業のグローバル展開	新たな生物系素材と食品メタボローム解析技術等活用による日本食・食産業のグローバル展開研究開発プラットフォーム(仮称)	地域に根差した加工食品(地元農水産物等活用)を、海外消費者向けカスタマイズを通じ、グローバル展開可能な日本食として新たに創出するプロジェクト。
13	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	国際統合睡眠医科学研究機構の取り組み: 食品のヒト睡眠への効果検証	筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(IIS)	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出

14	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	狭山二番茶の有効利用（乳酸発酵した後発酵茶とその付加価値）	東京電機大学理工学研究科・理工学部	利用価値の少ない狭山二番茶を利用して、その高付加価値化について、研究内容を発表する。高付加価値化として、従来の後発酵茶と比較して、おいしく飲みやすい後発酵茶の製法を確立したので、その特徴とその開発品の脂質代謝の改善効果についての研究データ。
15	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	精米副産物を利用した新たな実用化研究展開 －医薬品リード化合物やサプリメント 応用から家畜生産性向上技術まで－	東京大学・大学院農学生命科学研究科	白米精製段階で得られるγ-オリザノールは古くから研究が進んでいるが、我々は現代科学の技術を利用して、この10年間で新たな生理活性作用を発見してきた。本展示では、その新しい機能に基づいたγ-オリザノールの様々な新規実用化産業創出を提案する。
16	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	地域特産果樹を活かした健康産業イノベーション	(公財) わかやま産業振興財団 地域イノベーション戦略支援プログラム事業	県内資源の一つが特産果樹、その機能性を活かした新たな価値創造、機能性を活用する新たな加工技術開発による食品産業の高付加価値化と県民健康力の向上に貢献
17	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	ポリメキシフラボノイドの機能性と用途開発	アークレイグループからだサポート研究所	ポリメキシフラボノイド(PMF)はヒトの健康に資する様々な機能性を秘めているもののまだ用途開発が進んでいない。当社で研究しているPMF(ノビレチン等)のもつ機能性の一部を紹介し、一緒に研究、用途開発を進める仲間を探したい
18	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	1hで臨床レベル薬効・毒性濃度判定(九大発ベンチャー)	株式会社小名細胞アッセイ技術研究所	1. 生理的濃度での食品を含む各種成分に対する生細胞応答を検出、作用機序に左右されず、投与後1時間で、迅速、簡便、非標識、かつ高感度で、ヒト試験と同様に薬効・毒性をスクリーニングする技術。適用分野: 抗がん(固形、浮遊)、抗アルツハイマー、糖尿病予防、脂肪燃焼促進、代謝活性化、育毛、肌のターンオーバー促進、美白促進、アンチエイジング、冷え症改善、難病治療薬候補(幹細胞病態モデル)の各種スクリーニング。実施例: ブドウ種子抽出物、ニラ抽出物(抗がん)、ショウガ成分、ブドウ成分(脂肪燃焼促進)、キウイフルーツ、キノコ菌糸抽出物、ブドウ成分(肌のターンオーバー促進)など。 2. 高水温耐性水産物を採取した血球の測定により、1時間でスクリーニングする技術。実施例: アコヤガイ。
19	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	健康長寿に資する日本食由来成分の探索	信州大学バイオメディカル研究所健康長寿研究チーム	健康長寿に大きく寄与する食由来成分を探索するべく評価システムを紹介する。また現在、異分野融合共同研究「医学・栄養学との連携による日本食の評価」により得られた成果も一部紹介する。
20	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	機能性成分を含む新規導入作物キノアの国内での栽培と利用拡大の可能性	日本大学	機能性成分を含む新規導入作物キノアの国内での栽培と利用拡大の可能性についてのポスター展示

21	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	日本製粉の機能性食品開発・商品開発の取り組み	日本製粉株式会社中央研究所	当社は有効成分を多く含む野菜や、天然物や食品加工時に発生する副産物に含まれる有効成分を抽出、分析、素材化した機能性素材、並びにそれらを用いた商品開発を行い、健康機能を有する付加価値のある商品を市場に提供している。当社の機能性食品素材の研究開発の取り組みとその流れを紹介する。
22	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	「木の良さ」を科学するー木材のにおい、手触り、見た目が与える影響ー	国立研究開発法人森林総合研究所	木材のにおい、手触り、見た目が人間に与える影響について、人間の生理面・心理面に起こる変化を測ることにより、「木の良さ」を科学的に明らかにする研究の取り組みについて紹介する。
23	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	精神疾患患者のQOL向上に資する農作業療法のプロトコルの開発	茨城大学農医連携プロジェクト	茨城大学が取り組んできた農医連携事業(平成25~27年度)の一部として、「精神疾患患者のQOL向上に資する農作業療法のプロトコルの開発」部分に関する現在までの概要を紹介する。
24	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	ながはま0次コホート	京都大学大学院医学研究科ゲノム医学センター	個人の体質や微量な生命分子の変化に基づいた疾患の超早期発見と予防(先制医療)の実現を目指して、京都大学医学研究科が総力を結集して実施している「ながはま0次コホート」を基軸とした農水産・食品分野における産学官連携研究。
25	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	マイタケα-グルカンのインフルエンザに対する有効性(民間実用化研究促進事業で得られた機能性食品素材の紹介)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター(生研支援センター)	マイタケの凍結乾燥粉末抽出物からの免疫制御成分の特定と量産技術の確立を行い、成分のインフルエンザに対する有効性の評価を実施した結果について報告する。ポスターによる解説、リーフレットの配布、サンプル展示。
26	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	歯周病バイオフィルム鶏卵抗体(IgY)オポロンTM-biofilm(民間実用化研究促進事業で得られた機能性食品素材の紹介)	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター(生研支援センター)	複数の歯周病原因菌が相互に影響しあうことで形成される歯周病バイオフィルム(病巣)を特異的に抑える鶏卵抗体の開発についてのポスター展示、リーフレットの配布、サンプル展示。
27	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	「健康長寿社会の実現に向けた機能性成分(アントシアニン)豊富野菜の評価・効果分析と産地リレーの実現により、健康増進産業の創出」研究開発プラットフォーム	「健康長寿社会の実現に向けた機能性成分(アントシアニン)豊富野菜の産地リレーを実現し、健康増進産業の創出」研究開発プラットフォーム(仮称)	1. アントシアニンを多く含んだ多種の「機能性野菜」を商品化し、通年で市場に提供する産地リレー6次化システム(構想) 2. 高付加価値「機能性野菜」造りのため、「種の選定、産地の選定、安定的な栽培方法・環境整備(ICT技術活用)、商品の健康への効果測定・評価」等、技術開発の概要 3. コンソーシアム体制(開発~市場化の体制)

28	健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出	コリンエステル含有農産物を利用した革新的高血圧予防食品の開発	コリンエステル含有農産物を利用した革新的高血圧予防食品の開発研究開発プラットフォーム(仮称)	出展者は、コリンエステル類が幅広い農産物、発酵食品中に含まれ、高血圧予防作用を有する新規食品機能性成分であることを発見した。最近、コリンエステル類を豊富に含む農産物が明らかとなり、その実用化のための連携体制を構築したいと考えている。この農産物を用いた高血圧予防食品は、極めて低価格で生産できると見込まれ、世界的な事業展開が可能である。
29	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	農業ICTを利活用した農業や食への取り組み	一般社団法人ALFAE	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新
30	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	IDEC株式会社	IDEC株式会社セールス・マーケティング本部 ファインバブル事業室	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新
31	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	リアルハプティクス技術が拓く優しい農業現場の創出	慶應義塾大学ハプティクス研究センター	ヒトはモノに触れるだけで、対象の大きさや硬さ、柔らかさなどを即座に感じ取ることができ、その感触に適応した最適な動作を行うことができる。これが力触覚で、それを実現する技術がリアルハプティクス技術である。このヒトにとって当たり前の力触覚を世界で初めて機械/ロボットに復活させ、その効用の一端を展示する。
32	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	①予測技術を駆使したICT活用による果樹の栽培支援システムの構築、②次世代の培養技術「果樹のクローン苗」を活用したコンパクトデザイン化	栃木県農業試験場	①気象情報やウェブカメラを活用したリアルタイム樹体診断等を活用したニホンナシの高精度な生育予測を開発する内容を、ポスターで紹介。 ②挿し木発根性の無い(低い)果樹類の発根技術を検討。生長点培養技術を使わない、安価で簡易な挿し木技術をポスターで紹介。
33	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	IDEC システムズ&コントロールズ株式会社	IDEC システムズ&コントロールズ株式会社	環境制御技術およびファインバブル活用技術による高収量、安定収量化を実現する土耕による太陽光利用型植物工場
34	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	ICT活用農業 事業化・普及プロジェクト(名古屋大学拠点)	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 (ICT活用農業コンソーシアム)	ICT活用農業 事業化・普及プロジェクトでは、センシング層、基盤情報サービス層、ユーザーサービス層の3層のプラットフォームからなる農業情報インフラを構築した。本事業では露地栽培(コメ)、および施設栽培(トマト)における生産・栽培効率を改善するICT農業サービス、等を紹介する。
35	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	作物生産のため植物生体情報計測・活用技術	PLANT DATA JAPAN株式会社	・農作物を対象とした高精度植物生体情報計測技術(光合成機能診断, 成長量計測技術等) ・生育状態のビジュアル化技術(生育スケルトンによる生育状況の直観的把握, 生育状態の点数化)

36	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	カラマツ種苗の安定供給のための技術開発	国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター	カラマツ種苗の安定供給に向けた技術開発プロジェクト研究(地域戦略プロジェクト)の紹介
37	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	先端センシング技術を基盤とした搾乳ロボットを効率的に運用するための個体情報活用システムの開発	東京理科大学	搾乳ロボット及びセンシング技術の応用により得られる情報間のルールを導き出すことにより、発情の予兆や疾病の予兆を早期に把握し、酪農家に発情監視の強化や獣医師による早期診断などを促す、高度飼養管理支援システムを開発します。この研究開発計画は、「革新的技術開発・緊急展開事業」(先導プロ)に採択されました。
38	農林水産業の情報産業化と生産システムの革新	オールジャパンによる革新的植物工場システムの開発 (共同出展:農研機構、シャープ、パナソニック、富士フイルム、三菱ケミカルホールディングスグループ)	株式会社三菱ケミカルホールディングス	夏場の高温多湿環境下における温湿度制御を安価におこなう植物工場の開発と、農業・食料の新ビジネス創出
39	新たな生物系素材産業の創出	射出成形可能な木質プラスチック材料の製造と販売ー森林の保全に資するプラスチック素材をつくるー	アイコンポロジー株式会社	森林の間伐材の有効利用として「木粉とプラスチックの複合材料」を紹介し、日本の森林保全に役立つだけでなく、最終処分後のCO2排出削減にも貢献できる材料技術で、ものづくり企業とタイアップした製品化のみならず、世界にアピールしていける技術です。
40	新たな生物系素材産業の創出	カイコとシルクのプラットフォーム	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	「遺伝子組換えカイコとシルク」の生物系新素材としての幅広い利用可能性を示します。組換えシルク製品の試作品や、カイコで生産した組換えタンパク質を利用して商品化された検査薬や化粧品なども展示します。
41	新たな生物系素材産業の創出	中層大規模ツーバイフォー建築物から始める国内林業レボリューション	国立研究開発法人森林総合研究所	森林総合研究所がこれまでに開発した国内木材資源による建築用新素材とその応用展開技術を活用し、ツーバイフォー建築に一般的に用いられる規格材を国産材へ転換することで安定需給体制を確立し、林業の活性化へ結びつけるシステムの提案を行う。
42	新たな生物系素材産業の創出	生活に役立つ森林の香り、木材の香り	国立研究開発法人森林総合研究所	森林の香りや木材の香りの含有物質等に関する化学的特性や消臭、リラックス等の様々な機能性及び利活用に応じた画期的な抽出法等について、森林総研が長年蓄積してきた知見を実際の抽出成分等を交えてわかりやすく紹介する。
43	新たな生物系素材産業の創出	次世代水素エネルギーの安全キャリアとしての活用を目指した農林水産廃棄物からのアンモニア大量生産系の構築	京都大学大学院農学研究科	次世代水素社会を実現するためには、水素を安全に持ち運ぶためのキャリアが重要である。我々は、アンモニアがグリーン水素キャリアとして有望であることに着目し、アンモニアの生物学的大量生産系を構築する。

44	新たな生物系素材産業の創出	昆虫食の食品機能性	山口大学農学部(所属:山口大学大学院創成科学研究科)	「昆虫食」の健康増進機能性についての認知と、今後の昆虫食の普及を目指した研究についての紹介
45	新たな生物系素材産業の創出	β 糖質産業用水熱反応技術の開発	信州大学工学部 (生物化学研究室)	水溶液で満たされた容器(液密)を加熱すると液圧は急激に上昇し、飽和蒸気圧を上回った瞬間に水の密度は90~350倍に増大して、触媒としての性質が発現する。これは水熱反応場といわれ、バイオマス原料に作用させると加水分解を生じて、 β 結合を持った糖質が大量に生成する。 本学は、産学官連携によって産業用水熱反応プラントを完成したので紹介する。
46	次世代水産増養殖業の創出	魚類腸内フローラの制御による新規養殖技術の開発	国立研究開発法人産業技術総合研究所	養殖業界では、魚粉価格の高騰や病気の流行を受け、成長促進や病害予防の技術革新が求められている。本展示では宿主生物の生理活性に大きな影響を及ぼす「腸内フローラ」に着目し、養殖魚の有用フローラ探索を目指した最新鋭の微生物解析技術について紹介する。
47	次世代水産増養殖業の創出	養殖魚のエコカー化を可能とする飼料および養殖法の確立	東京大学大学院農学生命科学研究科水産化学研究室	養殖魚のエコカー化を可能とする飼料および養殖法の確立についての取り組み内容・成果を紹介する
48	次世代水産増養殖業の創出	陸上養殖の産業化に向けた閉鎖循環式陸上養殖システムの実証と展開	国立研究開発法人水産研究・教育機構	閉鎖循環式陸上養殖の現状と飼育水の浄化に関する特許(泡沫分離装置、間歇ろ過装置)の成果情報や今後の可能性について
49	次世代水産増養殖業の創出	有害赤潮・貝毒予測に係るメタゲノム解析の応用	国立研究開発法人水産研究・教育機構	八代海・大阪湾を中心に、週1回の時系列モニタリングを行い、有害赤潮・貝毒の発生・増殖・消滅に関与するプランクトンおよび微生物群をメタゲノム解析により特定する。標的種と出現に相関のあった種の塩基配列を分子マーカーとして活用し、有害・有毒種の発生予察を行うという研究。
50	世界の種苗産業における日本イニシアチブの実現	筑波大学遺伝子実験センター「形質転換植物デザイン拠点」	筑波大学遺伝子実験センター	筑波大学遺伝子実験センターは形質転換植物研究を総括的かつ先導的に実施しうる国内唯一の研究機関として認知されており、平成22年に「形質転換植物デザイン拠点」として文部科学省により共同利用・共同研究拠点として認定を受けている。拠点の内容と活動に関して展示を行う。

51	世界の種苗産業における日本イニシアチブの実現	トマトの品種開発	キッコーマン株式会社研究開発本部	キッコーマン(株)はグループ会社である日本デルモンテ(株)において農産物の加工とその育種に携わっている。本件では当社の持つ育種技術の強みと、他の研究機関が有する新規技術を融合させて、あらたな美味しさを目指した研究開発を訴求する。
52	その他	光を利用した農産物の高付加価値化	マルハニチロ株式会社中央研究所	収穫後の農産物に近赤外光を照射して、食味や関連成分を向上させる技術に関する内容とともに、ご来場者様に訴求したいポイント(下記②～⑦)について展示させていただきます。
53	その他	バイオマス生産量が倍増した植物および生物の作出方法	千葉大学園芸学研究科	異種の45S rRNA遺伝子を強制的に発現させると、生長速度が倍増する現象を発見した。生長量の増大は、細胞の肥大ではなく、細胞数の増大により、乾物重も約2倍になる。2次代謝成分などの含量は、原品種と同じであるので、結果的に約2倍の増収になる。
54	その他	乳用牛の健全性向上と新しい乳房炎管理技術・治療法を目指す研究開発	NETZO株式会社	乳用牛の健全性を促進する飼料の開発と、新しい乳房炎管理技術による抗生剤を使用しない乳房炎治療法の酪農現場への導入を目指す研究開発。
55	その他	グリーンエネルギーファーム研究拠点構想 —異分野融合研究による農業生産と再生可能エネルギー生産の両立—	京都大学	京都大学の4研究科、4研究所の連携により推進する、農地における食料生産と再生可能エネルギー生産の両立に関する研究拠点構想の内容等について展示し、関連企業や他大学・研究機関との連携を推進して、研究開発プラットフォームの形成を図る。
56	その他	畜産動物の成長促進を目的に使用されている抗生剤・合成抗菌剤に代替する混合飼料を開発し、畜産現場における耐性菌発生リスクを削減する研究開発	NETZO株式会社	畜産現場における耐性菌発生リスクを削減するため、畜産動物の成長促進用飼料添加物として使用されている抗生剤・合成抗菌剤に代替する混合飼料の研究開発
57	その他	「植物用触媒」を活用し、合成化学肥料成分の投入量を削減した農業生産を進める製品の研究開発	NETZO株式会社	「植物用触媒」は植物の酵素・補酵素の働きを活性化することにより、光合成を活性化するとともに、土壌の栄養素を効率的に活用できるようにする農業資材です。微量の投入で、化学肥料成分の投入量を抑制でき、生態系への負荷を軽減し、環境汚染を削減します。

58	その他	富士フィルムの農林水産業への技術貢献	富士フィルム株式会社	予防・診断・治療をキーワードに、富士フィルムの持つ、素材、画像処理、機器システム化の要素・開発技術を使い、農林水産分野に新たな価値提供を行います。
59	その他	共生微生物をターゲットにした新規害虫防除剤(共生阻害剤)の開発	国立研究開発法人産業技術総合研究所	化学農薬は強力な害虫防除資材である一方、高い環境負荷や抵抗性害虫の発生が大きな問題となっている。一方、多くの害虫はその体内に必須の共生微生物を保持しているが、これら共生微生物をターゲットにした害虫制御法の開発はこれまで行われていない。本展示では、「害虫自身を殺すのではなく、共生微生物の定着・維持を防ぐ」という、まったく新しいコンセプトの害虫防除剤の開発について、我々のこれまでの取り組みについて紹介する。
60	その他	あらゆる木質構造に適用可能な高剛性・高靱性接合システムの実用化	京大大学生存圏研究所	公共建築物等における木材の利用の促進をより確実なものとするためには、木質構造物が極めて稀な大地震を受けた際に、崩壊せず、人命を守り、地震終了後には建物を最小の復旧費用で再利用できる事が必要である。 本展示案が実用化を目指す接合部とは、集成材、直交集成板(CLT)、単板積層材(LVL)、人工乾燥製材等で製造された柱・梁・壁・屋根部材等に、工場内でラグスクリーパーボルト(LSB)を予め埋め込んでおき、建設現場においては、LSB同士を「摩擦接合ユニット」を介して連結する現場施工型接合システムである。 この接合システムを用いて建設された木質構造は、小・中地震に対しては殆ど変形せず、極稀地震(震度7以上)の際には大きく変形するものの、「摩擦接合ユニット」における長孔接合を利用した超高力ボルト接合の摩擦抵抗機能によって、地震エネルギーを大量消費し、木質部材に損傷を与えることなく、建物を倒壊・崩壊から守り、地震終了後には「摩擦接合ユニット」のみを交換することで建物を原型に復帰できるものである。
61	その他	ドローンを活用した位置情報取得・利用システムの開発、農林業への展開	株式会社ジオグリフ	ドローンを活用して得られる位置情報の、農林業への展開。 弊社の現状の取り組み段階と将来ビジョン、想定するロードマップ。
62	その他	海外産広葉樹原材料を国産広葉樹に転換へ	国立研究開発法人森林総合研究所	海外産広葉樹原材料の国産広葉樹による代替に向けた取組を紹介します。
63	その他	世界の食料の未来のために ～国際農林水産業研究センター (JIRCAS)を軸とした国際連携の展開 ～	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター	当研究センターの概要や海外との連携活動の取組を紹介します。国際共同研究に関する主要研究成果(印刷物)等も閲覧いただけます。

64	その他	市場を創る 農林水産と食のマーケティング - 生産者シーズと消費者ニーズの融合 -	株式会社インテージコンサルティング	農林水産と食のマーケティング - 生鮮食品等の商品開発・ブランドづくりの支援 - 健康食品・機能性表示食品の展開支援 - 生鮮食品・地域ブランド品の海外展開支援
65	その他	企業経営と働く人の健康管理の両立のための、農業体験を活用した新たな福利厚生サービスの提供	一般社団法人はたけの教室	健康な社員が収益性の高い会社をつくるという視点での、企業経営と働く人の健康管理の両立のための、農園や里山での作業体験を活用した福利厚生サービス。
66	その他	キッツスマート養殖	キッツスマート養殖研究開発プラットフォーム	水産ビジネスの新しいカタチ「キッツスマート養殖」
67	その他	一般社団法人ファインバブル産業会 (FBIA)	一般社団法人ファインバブル産業会 (FBIA) 研究開発プラットフォーム (仮称)	ファインバブル技術プラットフォームでのコンソーシアムの形成等
68	その他	常温流通可能な加工食品開発プラットフォーム	常温流通可能な加工食品研究開発プラットフォーム (仮称)	農畜水産食品素材を対象とした新たな乾燥プロセスおよび、これを搭載した装置に関する展示を行う。ポスターのほか、プロトタイプ機を用いて加工した試作品も展示する。
69	その他	学術統合化における日本農業イノベーション	学術統合化における日本農業イノベーション研究開発プラットフォーム (仮称)	同志社大学および研究連携大学が、産業・京都府・京都市・金融・マスメディア、そして地域が一体となり、地域が抱えている農林水産分野の様々な問題を解決行う

70	その他	ニーズ指向技術革新による高品質食資源の開発と世界に向けた産業創出	ニーズ指向技術革新による高品質食資源の開発と世界に向けた産業創出 研究開発プラットフォーム(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・目的:科学的な根拠に基づく「知」を活用し、人々の嗜好に合う高品質な食肉(豚肉、鶏肉、魚肉など)を生産することにより、海外から流入する食肉と差別化し、かつアニマル・ウエルフェアに反する生産技術とは一線を画する生産技術を開発し世界に展開する。そのために、飼料企業、生産者、加工、物流、外食サービス業などを経て消費者に届くバリューチェーンを構築して、マーケティングと商品化実証することを目的とする。 ・インパクト:人々の嗜好に応える高品質食資源を開発することは食品産業に新たな市場を開きそこに新たな産業を育成することになる。重要な動物性タンパク源である食肉(豚肉、鶏肉、魚肉など)の「旨さ」は脂肪とその脂肪の肉内部の蓄積分布状態によることが多い。この生産技術を実用化することによりTPPにより輸入される海外の食肉と差別化が可能となり、我が国の畜産業、養殖・水産業を発展させることができる。グローバルな食肉消費量は毎年増加しており、輸出商材とすることができる。その付加価値は価格に反映され生産者にメリットをもたらす。 ・食文化への革新:脂肪を生体内特定部位に蓄積することは、経験則にもとづき古くから行われている。一例として、強制給餌によるフォアグラ生産が挙げられる。しかし、アニマルウエルフェアの観点から強制給餌によるフォアグラ生産を禁止とする国や企業がある。「強制的に食べさせるのではなく、動物が好むものを食べることによって」組織内に脂肪を最適に蓄積する技術が実用化できると、世界に市場が生まれる。 ・異分野との融合による技術開発項目、想定される研究テーマ、目指す姿なども展示する。設立時メンバー、体制図も展示する。
----	-----	----------------------------------	--	---

2. プロデューサー的人材活動希望者

	応募者氏名・組織名称	法人名 又は所属	これまでの事業実績、参加概要等
1	渡邊 敏郎	大阪市立大学 新産業創生研究センター	大阪市立大学をベースとするイノベーション・プロデューサーとしての自己の強みをアピールさせていただきながら、一次産業イノベーションの実現可能なシーズ関連情報の収集をはかり、ビジネス化プラン策定に向けたコミュニケーション、ディスカッション、ならびに「志合わせ」を積極的に行いたい。同時に、現在遂行中のプロジェクト(PJ)テーマ(①大阪府河南町における都市近郊農業の六次産業化PJ、②和歌山県農産物有用化合物活用研究会(コンソーシアム)拡充PJ、③磁性薄膜自己相関演算素子とIoT利用による農業・林業・水産業の革新的生産システム開発PJ、④高機能・多機能性食材農産物国内(沖縄県)栽培普及PJ、⑤和歌山県林業・木材生産プロセス・ソリューションによる経営基盤強化PJ、⑥メタボロミクス・プラットフォーム整備による機能性食品開発効率化PJ)についても概要説明を加えて、プロジェクト形成、協働・協業コラボレーションの可能性を探りたい。
2	岩井 利仁	経営パワー株式会社	2015年1月に、経営とノウハウを活かし、新規事業プロデューサーとして丸の内の皇居前で起業。大企業と大企業、大企業とベンチャーの仲人だけでなく、協業プロジェクトを発足させ、プロマネも継続して行うことを本業としています。パナソニック/松下電器で約30年の新規事業、企業内ベンチャー経営者、ep、アクトビラ、藤沢スマートタウンなど世界最先端の大規模な産学官連携プロジェクトの経験が15年間あり、大きな組織を動かす事業化ノウハウはだれにも負けません。また、約100人の農林水産食品分野のプロや、中小企業診断士をチームメンバーとして組織化しています。海外での農民生産や輸出など、国際展開を含め事業フーズごとに最適なチーム編成をして対応いたします。
3	東海林 義和	有限会社サクセスライフインスティテュート	前回(3/7)のポスターセッションでプロデューサーポスターを出展し、自己のキャリアと抱負、プロデューサーとしての取組み姿勢をアピールした。今回は、より具体的に、出展関係者及び来場関係者と意見交換を通して、推進する研究開発プラットフォームと研究コンソーシアムの構築を目指して行く。推進する研究領域としては、「健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出」の研究開発プラットフォームと研究コンソーシアムの構築を目指したいと考えているが、他の領域でも、具体的なテーマが見つければ取り組んでいくことをアピールする。
4	甲斐 功一	KUコンサルタンツ	30年間2つの会社を経営。その後、13年間の中小企業対象の経営コンサルタントの経歴を持ちます。地域活性化には事業(ビジネス)としての組み立てが必要と考えています。私は、モノやサービスを売る仕組みづくりから、それを実行に移す為のマネジメント能力を持っています。研究開発の成功のカギは「売る仕組み創り」である。とアピールしたいと考えています。
5	島崎 秀雄	NPO法人21世紀の食と健康文化会議	学際領域からなるオピニオンリーダー、自治体、生産業、製造業、流通業、輸出業の協力を得て一次産品の評価科学体系の開発、健康メニューの提供を通して、特に「日本の高付加価値野菜・果物」を開発し、世界に向けて展開できるヘルスケア情報マーケティングシステムを基盤とする開発研究から事業展開に至る統合型ビジネスモデルの構築をアピールしたい。